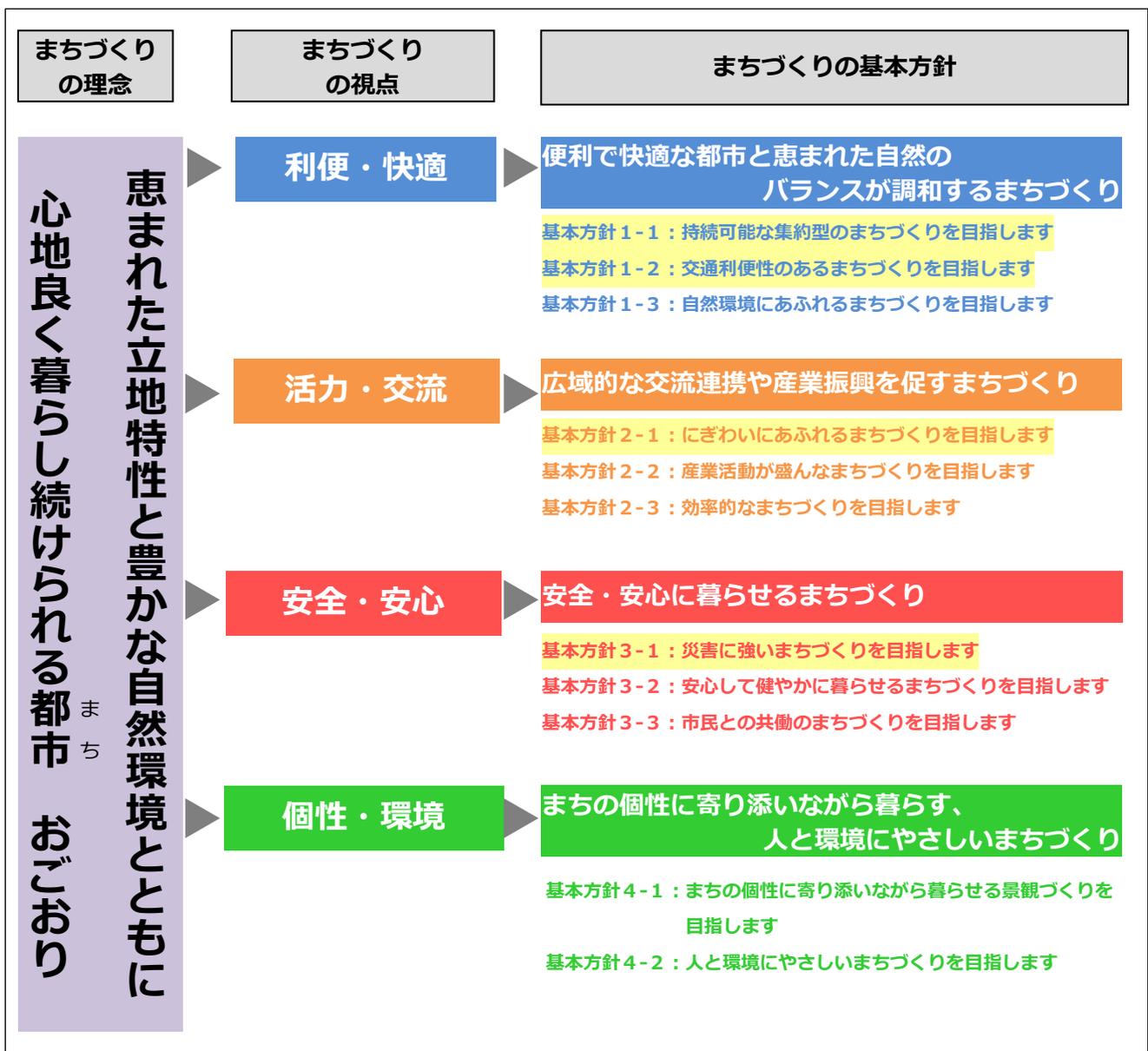


第4章 立地適正化の方針

1. まちづくりの理念・基本方針（第2次小郡市都市計画マスタープラン）

第2次小郡市都市計画マスタープランでは、人口減少、少子高齢化、頻発化・激甚化する災害等、様々な環境の変化に対応するため、本市の魅力を生かし「恵まれた立地特性と豊かな自然環境とともに心地良く暮らし続けられる都市おごおり」をまちづくりの理念とし、まちづくりの基本方針を設定しています。

まちづくりの基本方針では、立地適正化計画に関わりの深い項目として、「持続可能な集約型のまちづくり」、「交通利便性のあるまちづくり」、「にぎわいにあふれるまちづくり」、「災害に強いまちづくり」を目指すことが示されています。



まちづくりの理念とまちづくりの基本方針（第2次小郡市都市計画マスタープラン）

2. 立地適正化の目標

立地適正化の目標では、都市計画マスタープランのまちづくりの理念の実現に向けて、居住機能や生活を支える都市機能の誘導の方向性を示します。

本市は、九州自動車道と大分自動車道、西鉄天神大牟田線、甘木鉄道甘木線などがあり、交通環境が整っています。また、市内中央を貫流する宝満川沿いに広がる肥沃な田園地帯や、北東部に位置する花立山など、緑豊かな自然環境にも恵まれています。居住地としては、西鉄天神大牟田線沿線に広がる開発された住宅地と、交通利便性が良いながらも自然に囲まれた昔ながらの集落が併存し、新旧の魅力が調和した住みよい住環境が形成されています。

しかし、本市においても、人口減少・少子高齢化が急速に進む地域が見られ、空き家・空き地の増加、高齢化に伴う地域活動の担い手不足による地域コミュニティの希薄化、生活関連サービスの縮小・撤退といった問題が懸念されます。

このような環境下においても、コンパクト・プラス・ネットワークの考え方のもと、各拠点における都市機能の集積や安全で利便性が高い地域への居住誘導、拠点間の公共交通ネットワークの充実等により都市経営の効率化に努めながら、市民一人ひとりが望む多様なライフスタイルを実現でき、住み心地のよさを実感しながら、生涯にわたり暮らし続けられる都市を目指します。

〈第2次小郡市都市計画マスタープランのまちづくりの理念〉

恵まれた立地特性と豊かな自然環境とともに
心地良く暮らし続けられる都市 ^{まち} おごおり



〈立地適正化計画の目標〉

多様なライフスタイルが実現できる
“心地良く暮らし続けられる都市”を目指します

多様なライフスタイルのイメージ

老後の住み替えにより、駅近のマンションで自家用車が無くても歩きながら便利に暮らせる「まちなか暮らし」

緑豊かな美しい住宅団地に住み、鉄道で福岡都市圏に通勤、テレワーク等で快適に働ける「新しい団地暮らし」

大規模な公園や保育園、学校等へのアクセスがよい場所で、のんびり穏やかに子育てができる「健やか暮らし」

田園集落地にある自然に囲まれた広々とした住まいで、ご近所の方との交流を楽しむ「ゆったり暮らし」

3. 立地適正化の基本方針

立地適正化の目標を実現するため、居住や都市機能をどのように誘導するのか、その基本的な方針を示します。

都市機能誘導の方針

各拠点の役割に応じた都市機能の集積による 交流の促進・暮らしの質の向上

- 市の中心地である西鉄小郡駅、甘鉄小郡駅、甘鉄大板井駅周辺については、高次で多様な都市機能の集積や歴史文化資源の活用により、多世代の交流を促進し、歩きたくなる賑わいのある都市拠点の形成を図ります。
- その他の鉄道駅周辺については、地域の成り立ちや都市機能の集積状況、居住者のニーズなどを踏まえた都市機能の集積により、暮らしに根付いた拠点の形成を図り、市民生活の質や利便性の向上を目指します。

居住誘導・防災の方針

安全で快適に暮らせるエリアにおける居住の誘導

- 市民の多様なライフスタイルを尊重しつつ、住み替えの機会等において、生活利便性の高い拠点や公共交通沿線に居住の誘導を図り、誰もが心地良く暮らし続けることができる都市基盤の整備を図ります。
- 災害に強いまちづくりの推進と併せて、安全・安心で良好な居住環境が形成された場所へと居住の誘導を図ります。

公共交通の方針

誰もが利用しやすい公共交通ネットワークの構築

- 誰もが快適に移動でき、自家用車に過度に頼らなくても外出や交流ができる自立的な暮らしの実現に向けて、居住者と公共交通が相互に支え合う、便利で持続可能な公共交通ネットワークを構築します。
- 本市の拠点間をつなぐ基幹的な公共交通軸である西鉄天神大牟田線・甘木鉄道甘木線について、利用促進によるサービス水準の維持を図るとともに、西鉄小郡駅、甘鉄小郡駅周辺の交通結節機能の強化を図ります。
- 拠点内をつなぐ基幹的な公共交通軸に加え、居住地と生活拠点、生活拠点と基幹的な公共交通軸を結ぶ補完的な公共交通手段の確保・維持を図ります。
- 鉄道で十分な利便性を確保できない地域において、デマンド型交通などの利用者ニーズに応じた移動手段の確保・維持を図ります。

■ 拠点の役割分担

■ 拠点の補完関係

